

血の気が引くような写真だった。学校の課題で海洋プラスチックについて調べるために見た絵本には、アホウドリのお腹に大量のプラスチックが入った写真が載っていた。課題の一環で、日本のプラスチック排出量の内訳を調べたところ、企業と同じくらい家庭からプラスチックが排出されていることが分かった。家庭からプラスチックが排出されているのは、本当なのだろうか。

そこで、実際に一週間でのどのくらいのプラスチックが出るのか、自宅で調べてみた。四人家族が一週間に出したプラスチックの量は、総量が約九百グラム。そのうち、ペットボトルが約二百五十グラム、汚れていないプラスチックが約百五十グラム、汚れているプラスチックが約五百グラムであった。もし重量だけを見ていたら、プラスチックの排出量は「たいしたことないじゃん」と軽く考えていただろう。だが実際には、袋にパンパンに詰まっているプラスチックを見て、その体積に驚かされた。また、プラスチックを分けて捨てている過程で、捨てられたプラスチックの大半が食品関係だと気づいた。例えば、お菓子の包装やお肉のパックなどもすべてプラスチックであった。私は、今まで自分の家庭から出ていたプラスチックの量の多さにとても驚き、またこのままでは大丈夫なのかと危機感を抱いた。

日本人が排出する一人当たりのプラスチック量は、世界で二位である。日本がリサイクルしているプラスチックは約八十五%で、他国と比べてもかなり高い。一見リサイクル率が高くても良く見えるが、そのうち六割はサーマルリサイクルである。サーマルリサイクルというのはプラスチックを燃やした熱を再利用するリサイクルである。しかし、二酸化炭素が排出されるという問題や、燃やしてしまったら再度プラスチックとして利用することはできないという問題がある。つまり、プラスチック自体を減らさなければ、この問題は解決しない。そこで、プラスチック使用量を減らすための提案が二つある。

一つ目は、卵をパッケージなしでばら売りすることだ。そして買い物客には「マイ卵パック」を持参してもらい、マイ卵パックの中にばら売りの卵を必要な分だけ詰めて買う。マイ卵パックは、何度も使えてフタがしまる素材を用いる。この案を用いると利点が三つある。一つ目は、卵用のプラスチックパッケージを作らなくて良いので、プラスチック用の料金分販売価格が安くできるという利点である。二つ目は、プラスチックの製造を減らすことができるので、環境にやさしいという利点である。三つ目は、一つ一つばら売りにすることで、買い物客が自分や家族にとって適切な量を買うことができるので、食品ロスが減らせるという利点である。

二つ目は、配達で使われる段ボールをプラスチック製の箱に変更することだ。そして、プラスチック製の箱は使い捨てせずに、何度も使えるように、箱を毎度回収する。確かに、回収は大変だが利点が二つある。一つ目は、プラスチックは軽くて丈夫なので、段ボールよりも強度があり、運びやすく中身が傷つきにくいという利点である。また、雨に強いので中身が濡れにくく中身も箱も汚れにくい。そうすると、梱包材としてのプラスチックの量も減らすことができる。さらにプラスチックの特徴のおかげで繰り返し使うことにも適している。二つ目は、プラスチックの箱は折り畳み式なので、段ボールと同様に折りたたむことで、邪魔にならないように回収までに収納することができるという利点である。

プラスチックの便利さから、私たちはなかなか脱プラ出来ずにいる。しかし、プラスチックを使わずに今よりも便利な世界になれば、脱プラに「苦労」はいらない。アイデアを孵化させるための「工夫」こそが、必要なのである。そして、便利な世界を築くためには、自分と地球の未来を想像し、それに近づけるアイデアの卵を温めることが大事だ。